

調川公民館へ図書を寄贈

調川地区社会福祉協議会（古館智治会長）は12月25日、新築した調川公民館で使ってほしいと幼児・児童用図書を寄贈しました。

この日は、古館会長が市役所を訪問し目録を手渡しました。古館会長は「隣には保育所があるので帰りがけにでも読んでほしい。子どもたちにも利用しやすい施設にしていきたい」と話しました。

寄贈された約130冊の図書は、1月4日から供用を開始した調川公民館の図書室に配置されています。



おさかな教室でアジフライに挑戦

新松浦漁業協同組合女性部は12月21日、星鹿小学校でおさかな教室を開催しました。

この教室は、地元で盛んな水産業に子どもの頃から親しみを持ってほしいと、毎年市内の小中学生を対象に開催しています。

この日は、同小学校の5年生13人とその保護者が参加。同部員や保護者に、魚の捌き方やフライを揚げるコツを聞きながら調理し、その後自分で作ったアジフライ、じゃこめしなどを味わいました。



松浦魚市場で初競り

松浦魚市場では1月6日、令和3年の最初の取引となる初競りが行われました。

この日の入荷量は前年並みの約120ト。午前5時に1番競りが開始されると、競り人と仲買人らの声が市場内に響き渡りました。約1時間で水揚げされたアジ、サバ、イカなどが次々と競り落とされました。

その後開催された仕事始め式では、市場関係者が集まり、操業の安全と大漁、商売繁盛を祈願しました。



コロナ収束を願い門松を寄贈

公益社団法人松浦市シルバー人材センター事業委員会（堤^{ひでお}英雄委員長）は12月28日、市民への感謝の気持ちを表したいと、市役所北側玄関に門松1対を寄贈しました。

同センターの会員によって手作りされた門松は、高さ約1.7^{メートル}で、竹が斜めに切られた断面が、笑顔に見えるのが特徴です。

尼崎^{ただし}正副委員長は「コロナウイルスが収束し、今までどおりの生活に戻ることを願いながら真心を込めて作りました」と挨拶しました。



年始の伝統行事



①鬼火たき

正月飾りを燃やし、1年間の無病息災や家内安全を祈願する伝統行事の「鬼火たき」が市内各地で行われました。

調川町松山田免では1月7日、地域の人々が集まり、久保川志丸さん（調川・松山田）が昨年12月にクレーンを使って作製した、高さ約6尺、幅約4.5尺の鬼小屋に火が放たれました。久保川さんは「鬼小屋を作り始めて約20年。体が元気なうちは続けていきたい」と話しました。

②もぐら打ち

お正月の伝統行事である「もぐら打ち」が市内各地で行われました。これは庭のもぐらを追い払い、家内安全や無病息災、五穀豊穡を願うものです。

星鹿地区では1月6日、朝8時に地区の小中学生14人が集まり約50戸の家々をまわりました。

新藁わらで作られた約80本のもぐら打ち棒を持ち、はや囃し言葉を口ずさみながら、元気いっぱい地面を叩きました。

③大般若だいはんにゃ

毎年恒例の「大般若」が市内各地で行われました。福島町里地区では1月10日、小中学生約20人とその保護者たちが、福寿寺の般若経を納めた木箱を担ぎ、鐘や太鼓を鳴らしながら地区をまわりました。鐘の音を聞いた住民たちは、玄関先で木箱の下をくぐり、一年の家内安全と無病息災を祈りました。

小学生の頃から参加している福島中学校3年の末安恭太郎さんは「今年一年病気に気がつけたいです」と話しました。

④百手講ももてこう

市の無形民俗文化財に指定されている「百手講」が1月8日、志佐町庄野免の王嶋神社で執り行われました。この行事は、的に当たった矢の数で、その年の豊凶を占う伝統行事です。

今年の射手は、守山清和さんと山口宏信さんが務めました。えぼし烏帽子とかりぎぬ狩衣姿で約10ひろのぶ尺先の的をめがけて約50本の竹矢を放ち7本が命中。今年はは豊作になると伝えられました。